



# 校長室だより

令和6年度

5月8日

NO. 8

## 鵜呑みにしないで、「深い学び」を得るために……



△「ろじ捉魚図」(熊斐) 18世紀



GWの狭間、学校前の乙川の岩の上で、羽を広げ乾かす、黒い鵜の姿が見られました。朝食後でしょうか、少し涼しい風を体いっぱいと感じ、くつろいでいるのでしょうか。鵜の全身の筋肉には血管が密に張り巡らされているようで、酸素を大量に取り入れることができ、長時間の潜水も可能だそうです。そして、魚を傷つけずに飲み込むことができるため、昔から中国などインド以来のアジアで魚を取る漁法の一つとして、人々の生活と共にあったことが知られています。日本でも五世紀ごろには鵜飼いが始まったとされ、古墳からも「鵜形埴輪」なるものが出土されています。

「人の言葉の真偽などよく考えず、そのまま相手の言葉を信じ込んでしまうこと」の意味をもつ「鵜呑みにする」も、この鵜の様子から来ています。さらに、江戸時代に文献などには、鵜の飲みこむ様子から「物事をよく知っていること・合点」などの意味で捉えられているものもあります。

けれど、この情報化社会において「鵜呑みにすること」は、大きな問題を抱えています。普段の生活でも、一つの情報だけを捉え、全てを知ったように話したり、そうだと決めつけたりする姿を目にすることがあります。人の言葉も同様なことが言えます。例えば「嫌だ」の言葉の裏には、できないことへの不安や本当はやりたいという気持ち、相手への不満などがあつたりします。単にわがままという場合もあります。だからこそ、本当に理解するためには、一つの「言葉」を鵜呑みにせず、様子をよく観察し、考えなければなりません。

授業でも同じ側面があります。課題において、答えを鵜呑みにするのでなく、いろいろな側面や情報から、その真偽をよく考えることが「深い学び」に繋がり、大切だと言えます。

◇令和6年度 秦梨学区大運動会 ◇

日にち：5月25日(土) 8時45分～ ※予備日：26日(日)、代休：27日(月)

☆GWが明けると、練習が始まります。暑い日も予想されます。体調管理にご協力ください。